

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|---------------------|---|---|---|
| <p>定住のための取組について</p> | <p>大崎町のリサイクルの取組に感銘を受け、大崎で会社を立ち上げ、現在6名の社員を雇用している。社員は、1名がUターン者で、5名は県外からの移住者である。社員全員が結婚の適齢期となっているが、いざ社員が結婚する場合に、大崎でこのまま生活していくことができるか、パートナーが大崎に来てくれるのか、という不安がある。せっかく大崎に来てくれているのに、大崎にすることが社員のキャリアの妨げになってしまうか、と思うことがある。</p> <p>この大隅で楽しく過ごしていけるような環境を会社としても考えていく必要があるが、この点について、行政と連携してできることがないか、意見を伺いたい。</p> | <p>県では、結婚を希望する方の出会いや結婚を実現するため、「かごしま出会いサポートセンター」を設置し、会員管理登録システムを利用したマッチングや婚活イベントの情報発信を行い、結婚を希望する方の「出会い」のきっかけ作りをサポートしています。</p> <p>また、全ての子育て世帯を対象として、市町村と連携し、妊娠期から子育て期への総合的・継続的な切れ目のない支援を提供する「子育て世代包括支援センター」を設置するとともに、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の不安感等を緩和するため、子育て親子の交流等を促進する地域子育て支援拠点事業などの取組を支援しているところです。</p> <p>医療の面では、周産期医療や小児医療を含め地域の医療を支える医師や看護師等の確保に取り組んでいます。</p> <p>そのほか、移住希望者等に対して、県内の市町村が実施している移住支援策や産業の特徴、先輩移住者からのアドバイスなどの情報を、ホームページやガイドブックを活用して情報発信しています。</p> <p>さらに、Uターン後も定住し続けていただけるよう、子育てと仕事を両立できるような、多様で柔軟な働き方が可能となるテレワークについて、県内企業への導入促進に取り組んでおり、導入ガイドブックの作成や、国の助成金に上乗せ補助を行う事業などを実施していますので御活用ください。</p> <p>引き続き、市町村と連携して、また、民間の方々の御理解、御協力もいただきながら、結婚・出産・子育てしやすい環境の整備に取り組んでまいります。</p> | <p>医師・ 看護師 人材課</p> <p>子育て 支援課</p> <p>産業人 材確 保・移 住促進 課</p> <p>雇用労 政課</p> |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|----------------------|---|--|-------------------------------|
| <p>技能実習生の受入れについて</p> | <p>大崎町は現在人口12,400人だが、20年後には8,000人を下回るという予想があり、働き手として技能実習生がますます重要になる。技能実習生は、より賃金の高いところでの就労を望むため、鹿児島は地理的にも、賃金面でも、都市部との競争に不利であり、今後も技能実習生が大崎に来てくれるか心配している。</p> <p>大崎町は、ゴミのリサイクル率が日本一であり、爆発的に増え続けているゴミをなんとかしたいというインドネシアからの要請を受け、JICAの財政支援のもと、町から指導に赴いており、10年ほど関係が続いている。このパイプを利用して、インドネシアからの技能実習生をジャカルタと鹿児島とで提携し、安心して安全なルートで労働者を招くことができれば、質の高い労働力を獲得できるチャンスと考えている。</p> <p>この国や地方の経済の安定は、外国人とうまく共生できるかどうかにかかっていると思う。</p> | <p>県では、外国人が住みやすい魅力的な鹿児島の実現を図るため、多文化共生社会の推進に取り組んでおります。</p> <p>具体的には、県内留学生のための居住施設としての「かごしま国際交流センター」の運営や、「アジア・太平洋農村研修センター」で外国人の方を対象とした各種研修会等の開催、県内在住の私費留学生への奨学金の支給による、生活支援を行っています。</p> <p>さらに、外国人向けの日本語等講座の開催や在留外国人をサポートするボランティアの養成等を行っているほか、在留外国人と県民の交流促進等に係る補助金の交付や、多文化共生に取り組む団体へのアドバイザー派遣も行っていますので、活用を検討される場合には、国際交流課までお問い合わせください。</p> <p>また、外国人材の安定的な受入体制の整備を図るため、ベトナムに続く新たな送り出し国として、インドネシアやフィリピン等との関係構築に取り組むこととしており、外国人材の安定的な受入体制の整備を図っているほか、国の事業を活用して、外国人材の職場・地域への定着に向けた取組も推進しているところです。</p> <p>今後も、インドネシアをはじめとする新たな送り出し国との関係強化に取り組むとともに、外国人材が安心して働き、暮らせる環境整備に取り組んでまいります。</p> | <p>国際交流課</p> <p>外国人材政策推進室</p> |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|---------------------------------|--|---|-------------------------------|
| <p>商工会女性部の活動について</p> | <p>大崎町商工会女性部の部長をしている。部長になって14年、部員数は現在24名である。 就任当初は、部のお金を貯めようと、使わなくなった洋服やバッグを部員や友人から集め、部員の店の駐車場で、月1回販売をし、1年半続けて55万貯めた。そのお金は商工会の花壇の土を変えたり、花を買ったりする費用に充て、10年続けている。都萬神社での鯉のぼりも5年続けて揚げている。商工会の全国大会で表彰されるようにと、部員増強に力をいれたが、残念ながら全国2位であった。 ほかにも、役場の企画調整課に行き、簡単な作業のお手伝いをしている。今は、来年の国体が成功するように、国体用の花を育てているところ。これからも私たちにできることをしていきたい。</p> | <p>大崎町商工会女性部については、国体用の花を育てる取組を行っている団体として、かごしま国体・かごしま大会の「2023おもてなし隊（県民運動参加団体）」に登録し、県実行委員会ホームページにも掲載させていただいたところです。県では全国から訪れる方々を、まごころのこもったおもてなしでお迎えできるように、両大会に向けた県民運動の促進に努めてまいります。 なお、県では、商工会女性部の活動の推進を図るため、部員の資質向上に資する取組や小規模企業の振興、発展に資する取組等の支援も実施しています。</p> | <p>総務企画課 商工政策課</p> |
| <p>サツマイモ基腐病に関する加工業者への支援について</p> | <p>サツマイモの加工と、サツマイモのでん粉、わらび粉、葛粉の製造をしている。 サツマイモ基腐病で、生産者も苦労しながら栽培しているが、加工業者も非常に苦労をしている。貯蔵する段階で、基腐病に感染した原料が入っていると、他のサツマイモにもうつるため、この1年も莫大な量の原料を廃棄している。加工業者に対しても補助をしてほしい。</p> | <p>県では、令和4年1月に「鹿児島県サツマイモ基腐病対策アクションプログラム」を策定し、ほ場に基腐病菌を「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」3つの対策を総合的に推進しています。 また、中小企業等の事業継続に向けた資金繰りを下支えするため、本年6月に仕入単価の上昇や利益率が低下している中小企業者が活用可能な、保証料ゼロ、1年間実質無利子の「原油・原材料高騰等対策特別資金」を創設しました。 引き続き、こうした資金の活用を促すなど、県内の加工業者等の経営安定が図られるように努めてまいります。</p> | <p>農産園芸課 中小企業支援課</p> |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|-----------------|---|---|--------------|
| 全国和牛能力共進会への意気込み | 大崎で繁殖和牛農家をしている。今年10月の全共で、我々は連覇を目指しているが、県の考えはどうか。 | 「第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会」においては、本県から出品した「鹿児島黒牛」が全9部門中6部門で首席となり、また「種牛の部」では内閣総理大臣賞を受賞する等、「和牛日本一」の栄冠に輝くことができました。これまで5年の長きに渡り出品者をはじめ、関係機関・団体が一丸となって「チーム鹿児島」として出品対策に取り組んだ成果であると考えており感謝申し上げます。県としては、この「和牛日本一」の称号を前面に打ち出し、国内外に向けて積極的なPRに取り組み、更なる「鹿児島黒牛」の販路拡大につなげてまいります。 | 畜産課 |
| 肥料代、飼料代の高騰について | <p>国の仔牛の最低保証価格は、54万1千円であるが、経費は平均50万円かかるので、1頭あたりの利益は4万1千円しかない。</p> <p>また、友人の唐芋農家は、お父さんと二人で唐芋を13町作っているが、去年肥料代も払うことができなかったと聞いた。</p> <p>補助をしてほしいというわけではなく、唐芋に代わる施策や、畜産においては、飼料コストが上がっているの、栄養価の高い粗飼料を作るなどを検討してほしい。</p> | <p>配合飼料原料の多くを海外に依存している畜産経営においては、自給飼料の増産は重要な課題となっています。</p> <p>このため、県においては、草地や飼料畑等の造成・整備、収量向上のためのとうもろこしやソルガム等の栄養価の高い優良品種の選定試験を実施しているほか、水田を活用した飼料用稲の生産拡大を図っているところ。</p> <p>さらに、飼料生産における労働負担軽減等を図るため、コントラクターやTMRセンター等の育成等に取り組んでいるところ。</p> <p>また、さつまいも生産者に対しては、経営安定を図るため、国の事業を活用し、これまでの資材等の購入支援や、継続栽培支援等に加え、被害の大きい生産者については、他作物への転換等に対する支援を行っています。</p> <p>肥料価格高騰対策については、肥料コスト増加分の7割を補填する国の措置と協調し、県においても支援を行うこととしています。さらに、適正な施肥を図るため、土壌診断も行っているところ。</p> <p>県としては引き続き、関係機関・団体と連携し、自給飼料の増産や基腐病対策、生産資材高騰対策に取り組んでまいります。</p> | 畜産課 農産園芸課 |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|-------------------------------|---|--|----------------|
| <p>アスリートトレーニングセンターの利用について</p> | <p>大崎町のアスリートトレーニングセンターを利用するトップアスリートと連携して、運動教室などを実施している。トップアスリートは発信力があり、大崎町の関係人口の増加につながっていると感じている。</p> <p>今年改訂した鹿児島未来創造ビジョンの中で、産業の稼ぐ力を強化し、誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島を目指すというものがあつたが、大崎町にはすでにトレーニングセンターやリサイクル日本一のまちなどの資源があるので、今ある資源を活かして、もっと人を呼べないかと考えている。</p> <p>現在、トレーニングセンターの2階、3階の教室が空いているので、かごゆいテラスのようなコワーキングスペースやサテライトオフィスを誘致できたら良いのではと考えている。</p> | <p>アスリートトレーニングセンター大隅は、同施設を核とした、スポーツ合宿の実施等により、大隅地域の交流人口の拡大や地域活性化を図ることを目的としております。</p> <p>現在、センターの管理棟2階及び3階については、その一部を同センターが自主事業として行うヨガ教室等で利用しており、その他の会議室については、基本的には施設の設置目的に沿った会議での利用のほか、大崎町の災害時避難施設としての利用が可能となっております。</p> <p>それ以外の利用については、大崎町SDGs推進協議会のように、目的外であっても使用を許可している例もありますので、施設の有効活用として団体等へ貸し出すことは可能だと考えております。御提案があつたような会議室の利用については、地元の大崎町にも意見を伺いながら指定管理者と相談してまいります。</p> | <p>スポーツ振興課</p> |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|--------------|--|--|----------------------------------|
| 大隅半島の活性化について | <p>大隅半島はどんどん過疎化、高齢化が進んでいる。私の住んでいる集落も20年後には空き家だらけになるのでは、と心配している。子供たちにもっと、鹿児島食文化や伝統を伝えられる場が作れたらと考えている。</p> <p>例えば、鹿屋体育大学があるので、都会に行かなくても学びたいことが学べるように、鹿屋体育大学の専門分野を拡大したり、また、リモートを活用して、鹿屋体育大学で、東京大学や他の行きたい大学の授業が受けられたりできるようにならないか。</p> <p>田舎でも学べる場、子供の可能性を広げる場が必要である。そうすることで、人口減少を食い止めることができるのではないか。</p> <p>大隅半島の過疎化の進行を食い止めるには、何が必要と思われるか。</p> | <p>県では、過疎対策については、令和3年4月に施行された過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づき、同年8月に過疎地域持続的発展方針を、令和4年3月に過疎地域持続的発展計画を策定しており、関係市町村とも連携を図りながら、過疎地域の振興と活性化を図られるよう取り組んでいるところです。</p> <p>また、移住希望者等が県内へ移住することを促進するため、県内の市町村が実施している移住支援策や産業の特徴、先輩移住者からのアドバイスなどの情報を、ホームページやガイドブックを活用して情報発信しているほか、関係人口の創出につながるワーケーションについては、今年度新たに本県の魅力をより効果的にPRできるようホームページをリニューアルし、情報発信を強化することとしています。</p> <p>さらに、市町村やNPO法人等の団体等が連携してワーケーションの受入体制を整備する際の経費助成や、首都圏のビジネスパーソンに重点を置いた県内企業等とのビジネスマッチングを目的としたワーケーションツアーを実施しています。</p> <p>今後とも市町村や関係機関と連携して、過疎対策の推進や移住・交流の促進に取り組んでまいります。</p> <p>なお、国立唯一の体育大学である鹿屋体育大学では、大学スポーツを通じて地域との交流の輪を広げ、地域活性化に寄与する取組として、「Blue Winds事業」を実施しており、大学スポーツの観戦・応援イベントや市民参加型運動会等を開催していると聞いています。</p> | <p>地域政策課</p> <p>産業人材確保・移住促進課</p> |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|----------------|--|--|---|
| 野菜価格と生産コストについて | <p>野菜の価格が、コロナの影響でここ3年ぐらい20年前の8割程度の水準が続いている。一方で、原油高、肥料代の高騰、最低賃金の上昇など、生産コストは増加している状況。</p> <p>技能実習生も受け入れているが、期間が終わり3号を取得すると、大都市に行ってしまう。ほかにも、私の会社には農業大学の卒業生が毎年2名ずつ来ているが、助成金との関係で、3年間は定住して働いても、3年過ぎると、次の仕事に移っていく。</p> <p>定着してもらいたいのので、法人化して、月給制を導入したが、人件費が上昇する中、野菜価格が上昇しないと、どうにもならない。</p> | <p>燃油については、国において、国と生産者が1対1で積み立てた資金を財源として、燃油の全国平均価格と、発動基準価格との差額を補てんする「施設園芸等燃油価格高騰対策」を措置しており、県においても、同対策等への加入時に負担する積立金の一部支援や、施設園芸におけるヒートポンプなどの省エネ機器・機械の導入支援を行っております。</p> <p>また、肥料については、肥料コスト増加分の7割を補填する国の措置と協調し、県においても支援を行うこととしています。さらに、適正な施肥を図るため、土壌診断も行っているところです。</p> <p>なお、生産資材価格の高騰に関して、各地域振興局・支庁に相談窓口を設置しておりますので、御相談ください。</p> <p>外国人材の受入れについては、安定的な受入れを図るため、国の事業を活用して、外国人材の職場・地域への定着に向けた取組を推進しているほか、県内企業が取り組む社内環境整備や地域交流等を支援しています。</p> <p>また、農業法人における人材定着に向けては、農業次世代トップリーダー塾の開催や社会保険労務士などの専門家派遣等を通じて、労働環境改善に向けた取組を支援しています。</p> | <p>農政課 経営技術課 外国人材政策推進室</p> |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|-----------|---|--|-----------------------------------|
| 物流コストについて | <p>11月から5月まで毎日、大根1000ケースを大阪に送っている。運送会社は、6時間以上は連続走行ができない、10トン以上は積めないというような状況。今年も、運送会社から、大根の積み込みは農家の方でやってくれと言われた。私たちも現場に出て忙しいので、パレット輸送をするしかないが、パレット輸送では満載にすることができない。何かいい知恵がないか。</p> | <p>国においては、トラック運送業の働き方改革に取り組む中で、荷の手積み作業のドライバーへの高負荷を農産物物流の課題とし、その対応方策の一つとしてパレット化を挙げているほか、ICTの活用や共同輸送の仕組、鉄道・船舶へのモーダルシフトといった対応方策の検討も進められているところだ。</p> <p>また、国の「総物流施策大綱」に基づき、令和3年に「青果物流通標準化検討会」を設置し、青果物流通における標準化の取組を推進し、現状と今後の対応の方向性について、議論・検討を進めています。中でも、パレット化の促進については、荷役作業の効率化、トラックへの積載効率の向上を図るため、青果物を含め、業種横断的なパレットの標準化等の検討が進められているところだ。</p> <p>パレット化については、規格の非統一などの様々な課題があるものの、ドライバーの過重労働や長時間労働の削減、荷役スペースの有効活用等の効率化に効果を発揮することなどに御理解いただきたいと考えております。</p> <p>県としても、トラックドライバー不足等に起因する経費と時間の増に対応した、持続可能な輸送体系の構築が重要と考えていることから、農林水産省の検討状況など情報収集に努め、パレット化など青果物流通標準化の動向を注視してまいります。</p> | <p>交通政策課</p> <p>かごしまの食ブランド推進室</p> |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|------------------|--|--|--------------|
| 原油価格、肥料価格の高騰について | <p>原油価格の高騰により、肥料代、資材代の価格が去年と比べて倍以上の値上げとなっている。これまで出ていた利益が、今年になって半減するのではと不安を抱えており、農作物の市場価格も肥料代を転嫁できていない状況である。</p> <p>青年クラブの中でも、農業を継続することに不安を抱えている人が多いが、県として、原油価格、肥料価格の高騰について何かできる対策はないか。</p> | <p>生産資材高騰対策のうち燃油については、国において、国と生産者が1対1で積み立てた資金を財源として、燃油の全国平均価格と、発動基準価格との差額を補てんする「施設園芸等燃油価格高騰対策」を措置しており、県においても、同対策等への加入時に負担する積立金の一部支援や、施設園芸におけるヒートポンプなどの省エネ機器・機械の導入支援を行っております。</p> <p>また、肥料については、肥料コスト増加分の7割を補填する国の措置と協調し、県においても支援を行うこととしています。さらに、適正な施肥を図るため、土壌診断も行っているところです。</p> <p>生産資材価格の高騰に関しては、各地域振興局・支庁に相談窓口を設置しておりますので、御相談ください。</p> | 農政課 経営技術課 |
| | <p>若い世代の農家がやりがいを持つ政策はないか。</p> | <p>県では、農業の「稼ぐ力」を引き出すため、「人づくり・地域づくりの強化」、「生産・加工体制の強化、付加価値の向上」、「販路拡大・輸出拡大」を3本柱として取り組んでおり、農業を支える人材の確保・育成を進めるとともに、6次産業化やスマート農業の推進、輸出拡大等に取り組んでいるところです。</p> <p>また、新規就農者の育成については、認定新規就農者への誘導や青年農業士の認定を進めるとともに、就農後の経営確立のための資金交付、経営発展に向けた機械・施設等の導入支援等にも取り組んでいるところです。引き続き、若い世代の農家がやりがいを持って農業に取り組んでいただけるよう努めてまいります。</p> | |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|----------------|---|---|-------|
| 大隅半島の教育の充実について | <p>国立大学を目指している大隅半島の子供は、年間100名、薩摩半島では、年間1,000名以上であり、大隅半島と薩摩半島で教育の格差があるのでは、と感じている。県全体を全国と比べても、大学進学率が低く、高校卒業者の就職率が高い。鹿児島の子供たち、大隅の子供たちに、学びの機会をもう少し与えてあげたい。</p> <p>大崎の子供たちが、大学を目指すなら、公立であれば志布志高校、鹿屋高校、曾於高校、私立であれば尚志館高校、鹿屋中央高校。</p> <p>尚志館高校、鹿屋中央高校は4倍近い志願倍率があるようだが、公立高校は定員割れの状況であるため、大隅地方にある公立高校を見直しし、魅力ある高校にしてほしい、また、楠隼中学・高校の門戸を大隅の子供たちにも開いてほしい。</p> <p>大隅にも優秀な子はたくさんいるので、鹿児島市の高校に行くための、5%枠などの枠で区切らずに受け入れるようにしてほしい。</p> | <p>大隅学区の県立高校については、再編整備により、平成26年度から曾於高校や楠隼中高一貫校を開設し、現在の9校となったところです。それぞれの学校が特色ある教育活動を行っており、進路指導に関しては、普通科だけでなく専門学科においても国公立大学等への進学実績を上げるなど、生徒の進路希望に応じた柔軟な指導体制を整えています。</p> <p>なお、大隅学区を含め県立高校の更なる魅力向上に向けては、現在、ICTを活用した遠隔授業や小規模校間の連携、普通科改革などについて検討しているところです。</p> <p>また、楠隼中高一貫校については、県内外から広く募集を行っていますが、現在、通学生や女子の受入れについて検討しているところです。</p> <p>通学区域外の高校に進学するための枠の設定については、進学先を自由に選択できるよう枠の拡大や通学区域の廃止を求める意見がある一方で、地域に根ざした学校づくりを進めるため、枠の縮小や通学区域内への進学の限定を求める意見もあります。</p> <p>県教育委員会においては、これまでの経過を踏まえながら、引き続き、生徒がどの高校に進学しても、自らの進路希望の実現が図られるよう、各学校における教育の充実に努めてまいります。</p> | 高校教育課 |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|-------------------------|--|---|--------------|
| <p>スポーツ能力測定会の実施について</p> | <p>未来のアスリートを発掘するためのスポーツ能力測定会が全国で行われている。鹿児島県では限られた地域でしか行われていないので、他県のように鹿児島県でもたくさん開催してほしい。</p> | <p>県内では、（公財）県スポーツ協会がアスリート発掘等を目的として、各競技団体と連携し、7競技でそれぞれ年5回程度、児童生徒を対象に体力テストを含むスポーツ教室を実施しているところです。</p> <p>また、各小・中・高校においては、毎年体力テストを実施し、児童生徒の体力の把握を行い、児童生徒の早期のスポーツとの出会いに役立てています。</p> <p>全国的には、（一社）スポーツ能力発見協会が、自治体等の委託を受けて、年に30回程度の測定会を実施しており、県内でも鹿児島市や大崎町で実施されたことがあります。</p> <p>県としては、こうした様々な機会に、児童生徒の体力が把握され、未来のアスリートの発掘につながることを期待しており、（公財）県スポーツ協会等に対しては、児童生徒を対象としたスポーツ教室等の事業の更なる充実を図るよう働きかけてまいります。</p> | <p>保健体育課</p> |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|-------------------|--|---|----------|
| 大隅半島での農業研修の実施について | <p>大隅から研修などに参加したいが、鹿児島市で開催されることが多く、距離がある。行けないなら呼ぼう、ということで、女性農業者会の10周年を記念し、女性大会を大隅半島でやろうと取り組んだが、コロナで開催はできなかった。</p> <p>農業に従事する全ての女性を対象にして、3、4か月に一回定期的に勉強会や研修をしたいと思っているが、行政の力も借りないと、なかなか実施できないところ。</p> <p>重要な会など、県全体の会合を大隅でも実施していただきたい。</p> | <p>県では、女性農業者の農業経営への参画を支援する「女性農業者リーダー育成講座」（全3回）について、今年度は対面のみでなく、オンラインでも参加できるようにしたところです。</p> <p>今後も、県全体を対象とするような研修会等については、対面及びオンラインの両方で実施できるよう対応してまいります。</p> | 経営技術課 |
| NPO法人の活動について | <p>NPO法人で、子供から大人、高齢者、障害を持つ方まで、幅広い層を対象に地域内外の人の知恵や、地域資源、食材の良さを広め、コミュニティ創出に関する事業を行っている。</p> <p>去年は、文科省の子どもゆめ基金を活用し、横瀬古墳で、古代に関する本の読み聞かせをしたり、古代の器で古代食を食べて埴輪作りなどを行う「本の世界を冒険！探検！」というイベントを7回実施した。</p> <p>大崎町はリサイクル日本一、SDGs推進の町であるため、今年度はものづくりワークショップで、ペットボトルを再利用した土器風フラワーポット作りも行った。</p> <p>活動するには資金が必要だが、助成金の活動だけでは安定しないのが悩みである。</p> | <p>県では、かごしま県民交流センター内にある「県共生・協働センター」において、社会貢献活動を行うNPO法人や地域コミュニティ等の資金調達に関する相談対応など、運営・活動等に関する助言・支援を行っています。</p> <p>また、同センターホームページでは、各種助成金の情報提供等も行ってまいりますので、御利用ください。</p> | くらし共生協働課 |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|--------------|---|--|-------|
| 療育施設の不足等について | <p>療育施設に通う、あるいは通っていた子供の保護者が参加するコミュニティサークルで役員をしている。</p> <p>自分の子が発達障害を持っていることに親が気付かない場合が多く、その分、支援が遅れてしまう。適切な時期に適切な場所で適切な専門職員が十分な時間と知識をもって対応できなかったケースが非常に残念であると感じる。</p> <p>健診には母親だけでなく父親にも1度は参加してもらい、その際に、今の社会では発達に障害が生じる子どもが少なくないことを伝える場を設け、父親も一緒になって子供のサインを見逃さずにキャッチできるようにし、相談しようなと思える意識づけができていく流れづくりが必要だと考えている。</p> <p>療育施設は通常の保育より丁寧かつ専門の知識を併せ持って支援する施設で、通常の保育より人員を要し、専門的な関わり方や、体力、メンタルを必要とするので、非常に過酷な労働状況であるが、携わる方の給与がそれに見合うものではないため、人員不足となっている。それが療育施設の不足につながっていると考えるので、改善をお願いしたい。</p> <p>また、放課後等デイサービスには、経営内容に厳格な決まりが少ないため、施設が多くある地域でも質の問題があり、一方で、数が少ない地域では、学童を利用せざるを得ない子供たちも多い。安心して療育を受けられるように、県にも支援をお願いしたい。</p> | <p>療育施設は、国が定める障害福祉サービス等報酬に基づき運営されており、施設が賃金体系や経験・資格等に応じて昇給する仕組みを整備するなどの要件を満たした場合、障害福祉サービス等報酬の加算が受けられることとなっています。</p> <p>職員の賃金向上を図るためには、この加算の制度が十分に活用され、職員の賃金に適切に反映される必要があります。</p> <p>そのため、県では、療育施設をはじめ、多くの事業者が職員の賃金向上に取り組めるよう、加算の制度を理解するための研修会や、専門家の派遣などによる支援を実施しています。</p> <p>今後とも、こうした取組を通じて、療育施設で働く職員の更なる賃金向上に努めてまいります。</p> <p>また、発達障害児に対する療育支援体制の充実を図るため、医師、理学療法士、作業療法士、ケースワーカー等が地域の療育施設に出向き、支援の方向性の検討や必要な助言等を行っているところです。</p> <p>発達障害児が必要な療育支援を身近な地域で安心して受けることができるよう、引き続き、体制整備の充実に取り組んでいきたいと考えています。</p> | 障害福祉課 |

知事とのふれあい対話（大崎町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

| 意見項目 | 主な意見（要約） | 県の対応等 | 課名 |
|----------------------------|--|---|----------------------------|
| <p>学校等における発達障害への支援について</p> | <p>私の子供は学校で支援級を利用している。発達障害を持つ子は、新しい環境に適応するまで時間を要することが多い中、1年の途中で担任が変わって、年度の終わりにも毎回先生が変わっている状況である。</p> <p>支援級の担任の先生の中には、支援級の担任は初めてであり、これから勉強したいとおっしゃるが、コロナで研修が一度も開かれないままと言う先生もいた。支援級を担任する先生は特に、他の先生方も、療育や発達障害における知識を習得できるシステムができたらいいと思う。</p> <p>また、学校に支援級があるように、保育園で支援級のようなクラスを設置し、プレ教室的な役割を果たせると、子供の困りに早く気付くことができるのではないか。</p> | <p>各学校においては、特別支援教育に係る経験等を考慮して特別支援学級の担任を配置しているところですが、特別支援学級の増加に伴い、特別支援教育の経験のない教員が配置されることもあります。</p> <p>県教育委員会では、初めて特別支援学級を担任する教員について、毎年5月に研修を実施しています。今年の研修は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、オンラインの形式で実施しました。またこれ以外にも、スキルアップを図るために、実践的なグループワークを中心とした研修を行っています。今後とも特別支援教育を担当する教員の専門性向上に努めてまいります。</p> <p>また、保育所等においては、特別な支援が必要な子供の受け入れに当たって、保育士等を追加して配置し、一人一人のニーズに応じた支援に取り組んでおり、この取組に対して市町村が支援を行っています。</p> <p>県としては、保育士等必要な職員の確保や育成に努めるとともに、早期の段階からそれぞれの子供に対応した専門的な支援に結びつけられるよう、引き続き市町村と連携して保育所等への支援を行ってまいります。</p> | <p>子育て支援課</p> <p>義務教育課</p> |